

注意点1



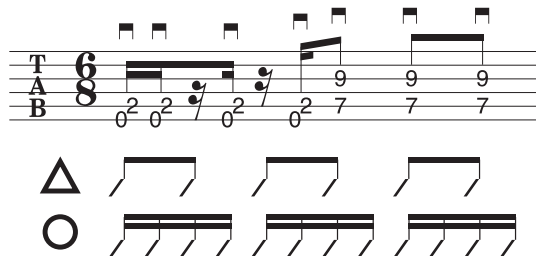
理論

3連符ノリはNG! 6/8拍子を16分で感じよう

6/8拍子は、通称“ハチロク”と言われていて、1小節内に8分音符が6個分の拍数になる。90年代以前のロックでは、6/8拍子は“イチ・ニー・サン/ヨン・ゴー・ロク”と8分音符を3個ずつに分けて、3連符のようなイメージで取っていた。しかし、このメイン・フレーズのようなモダン・ヘヴィ系リフでは、16分音符が細かく入ってくるので、6/8拍子を3連符のノリで取ると独特なグルーヴ感が出にくい。したがって、基本的には16分音符主体で取って、“12/16拍子”のようなイメージで演奏すると良いだろう(図1)。実際の演奏時には、頭の音で“タカタカタカ〜”と16分音符のクリック音【註】を鳴らすようにしてほしい。

図1 6/8拍子の取り方

・メイン・フレーズ1小節目



16分音符主体で取ること、歯切れの良い演奏ができる。

注意点2



左手

寸止めミュートを使って 休符で音をしっかり切れ!

このメイン・フレーズは16分休符で音をしっかり切らないと、モダン・ヘヴィ系特有のグルーヴ感を生み出せない。例えば、1小節目1拍目のパワー・コードに絡む16分休符では、右手だけでは音を綺麗に切ることができないので、左手人差し指以外の指をすべて使ってミュートを行なおう(写真①&②)。この時、弦を叩くようなイメージで左手を動かすとスピーディに音が切れる。ただし、ハンマリングのように弦を叩いてしまうとノイズが発生するので注意すること。このような左手のミュートはベーシストの方が得意なので、ベーシストのプレイを研究してみると効果的だ。“寸止め”を目指して、何度もくり返し練習してみよう!



Emのパワー・コードの押弦時。16分休符を意識して、中・薬・小指の3本指を動かす準備をしておくとうい。



16分休符でのミュート時。中・薬・小指で弦を叩くように素早く動かして、音をしっかり切ろう!

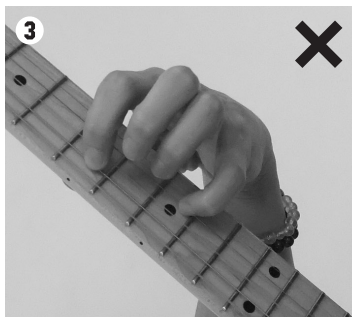
注意点3



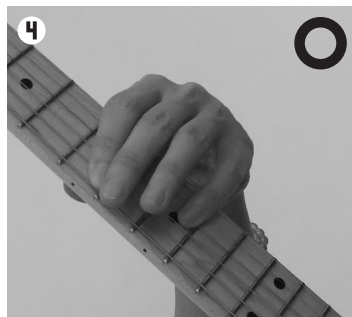
左手

フレーズのアクセントとなる オクターブ奏法をマスター!

モダン・ヘヴィ系ギタリストは、オクターブ奏法を駆使して、フレーズにアクセントを付けることが多い。オクターブ奏法は、ルート音とそのオクターブ上の音を同時に弾くことで、厚みのあるサウンドを生み出すテクニックだ。実際の演奏時には、ルート音とオクターブ音の間の音のミュートを的確に行なう必要がある(写真③&④)。指を立てて押弦するとミュートができないので、指を寝かせて余弦にしっかり触れるようにしよう。また“6&4弦”“5&3弦”と“4&2弦”“3&1弦”では、押さえ方が少し変わるので(小指が1フレット分上がる)、それぞれの押さえ方をきちんと覚えておくこと。



オクターブ奏法は、指を立てて押弦すると、不要弦のミュートができない。これではノイズが発生してしまうぞ!



中指&薬指も寝かせて、すべての不要弦をミュートしよう。こうすることで激しいピッキングにも対応できる。